

対話と改革で まちの未来を築く



6月定例会初日に所信表明を述べる佐賀町長

6月2日に開会した「第132回与謝野町議会6月定例会」において、佐賀利裕町長が町政運営に対する考え方を示す「所信表明」を行いました。所信では、住民の皆さんや議員、職員との「対話」を積み重ねながら、20年後、30年後も安心して生活し、安全に暮らせるまちづくりをめざしていく考えなどが示されました。

今月号では、所信表明の内容を要約してお知らせします。

4つの分野に取り組む

4月の町長選挙で初当選した佐賀町長は、住民の皆さんから寄せられた「新しい町政への期待」にこたえるため、これまでの20年間を総括しながら、新たな時代に向けたまちづくりを進める考えを示しました。

町長は、「20年後、30年後も安心して暮らせるまち」を目指す姿として掲げ、若者を含むすべての住民の皆さんが将来に希望を持ち、自立した地域社会を築くことの重要性を強調。その実現に向けて、「地域経済」「財政」「暮らし」「行政運営」の4つの分野を重点課題として取り組む方針です。

地域経済を活性化し 働く場を増やす

町長は、町内の労働世代の多く方が、町外へ通勤している現状を課題として挙げました。地元事業者の収益向上や事業拡大を支援し、町内で働く場を増やすことで、地域経済の活性化につなげたい考えです。

物価高騰への対応として事業者支援制度の創設を検討するほか、地元

住民との対話を重視した 町政へ

行政運営では、「住民の皆さんの声を聴くことが町政の基本」との考えを示しました。

町ホームページや投書箱の活用に加え、これまでの町政懇談会を改め「わがまち座談会」を開催し、町長が公民館などへ出向いて住民の皆さんと対話を行う方針です。

また、役場庁舎を利用する際の不便解消に向け、どの庁舎でも同様の行政サービスを受けられる体制づくりをめざします。デジタルを活用した窓口改革や行政手続きの効率化を進めるほか、機構改革や職員の人材育成の見直しにも取り組めます。

住民とともに 未来の与謝野町をつくる

町長は、「住民の皆さんの声と協力により、一緒に与謝野町をつくっていききたい」と述べました。限られた財源の中で優先順位を定めながら対話を重ね、将来を見据えた持続可能なまちづくりを進めていく考えを示しました。



住民の皆さんの声を聴くため各庁舎の玄関付近に設置してある「街角町役場」



ふるさと納税でも人気の与謝野産のお米（令和7年度は目標の1億円を突破）

子育て・医療・防災など 暮らしを支える施策を推進

「財政基本計画」を策定し、安定した財政運営を目指します。

安心して暮らせるまちづくりに向け、生活環境の改善や子育て支援、医療・福祉の充実にも力を入れます。スーパーマーケットや金融機関、公共交通の縮小による生活の不便解消に取り組みほか、子育て支援センターや奨学金制度など既存施策の検証・改善を進めます。また、のだがわこども園とのだがわ第2こども園の受入体制整備や、学校給食センターの早期完成を目指します。

医療分野では、町内で受けられる医療サービスの充実や若手医師の定着支援、巡回医療の誘致活動などを行います。また、介護分野では施設の高齢化対策や人材確保について検討を進めます。

防災・防犯対策としては、地域における避難体制の強化や防犯カメラ配置計画の策定を進めるほか、教育分野では文化事業の充実、学力向上、地域探究活動の推進、図書館や公園の整備などにも取り組む考えです。

産品や技術、サービスの販路拡大、ふるさと納税の推進、地域商社の設立検討などに取り組めます。

また、観光振興では「与謝野観光ブランドデザイン」を策定し、阿蘇海周辺エリアと野田川・加悦地域を結ぶ観光ルートの形成や、ちりめん街道などの地域資源を活用した体験型観光の推進を目指します。地域の魅力を発信し、外部からの投資や交流人口の拡大にもつなげていく考えです。

健全な財政運営で 将来への備えを

町長は、町税などの自主財源が限られ、基金（町の貯金）の減少が続いている現状に触れ、持続可能な財政運営の必要性を訴えました。

収入面では地域経済の活性化やふるさと納税の推進に取り組む一方、支出面では事務事業の見直しや公共施設・町有財産の整理を進め、不要不急の支出を抑制するとしています。

さらに、デジタル技術の活用による業務効率化や組織改革を進めるとともに、将来の財政目標を明確にし

新たな町政運営の スタート

今回の所信表明では、地域経済の活性化や財政の健全化、子育て・医療・福祉の充実、住民との対話の推進など、幅広い分野にわたる施策の方向性が示されました。特に、町外への通勤者が多い現状を踏まえた雇用創出や地域産業の育成、行政と住民との対話を深める「わがまち座談会」の実施などは、新たな町政の特徴として位置付けられています。

一方で、人口減少や少子高齢化、公共施設の維持管理、社会保障費の増加など、まちを取り巻く課題は今後さらに大きくなることを予想されます。こうした中で、住民の皆さんの声を町政に反映しながら、限られた財源を有効に活用し、将来世代につながる持続可能なまちづくりをどのように進めていくのか、その取り組みが注目されます。新たな体制のもと、与謝野町のまちづくりが本格的にスタートします。

所信表明の全文を公開しています。



町ホームページ